

穫は十一月の摘採期迄に降霜があれば或は半減するかも知れぬが、今の所では好い場所は一英町に一ペール半、悪い所を半ペールと見て先づ全部で十萬ペール位はあらうと観測されてゐる之れを目下の相場一斤六十仙に見積るにペール三百弗にもなつて大層儲かる計算だが、收穫期には下落して四十仙位になるものと見てペール二百弗即ち一英町から取り上げた棉花代が先づ二百弗、之れに種子が半噸で六十弗、即ち總計二百六十弗の收入がある事となる。

(棉花一ペール五百斤を作るには摘採棉千五百斤を要し其中棉花は五百斤取れ種子は千斤取れる割)尤も前言つた通り霜害で半作になれば收入は自然半減となるわけである。それで之れを米國に輸出するには輸出税を要し高い時はペール廿弗も取られたが本年は先づ五弗と見てよからう。米國側では幸ひ輸入税をかけぬから樂である。扱て之れに對する耕作入費はといふに假に借地耕作として

地代平均(一英町)	廿五弗(米貨)
水代	六弗
種子	一弗
畦造り	一弗五十仙

播種料	七十五仙
シニング及びホイング	十五弗
カルチベチンダ	四弗五十仙
灌溉費	十弗
摘採費(一斤二仙千五百斤)	三十弗
衡量其他雜費	十弗
運搬費(ペール)	四弗
其他共で合計	一百十弗

といふ譯であるから、差引一英町から百五十弗の利益がある事となる。尤も未開墾を借れば開墾費が一英町に百弗ばかり懸るが、之れを其土地を三ヶ年間使ふとして之れを割當てると一ヶ年卅三弗餘となる。目下借地料は開墾して何時でも植付けられる場所は一英町三十弗位。未開地は五弗乃至十弗。之れを購入するには未開荒蕪地は最廉廿五弗、最高七十五弗位である。墨國では憲法で國境内五十基米突約十哩ほどの處は外國人の土地所有權を認めず。それで九十九ヶ年間のリースか或は墨國在住四年で歸化證を取つて買取るのである。我が郷大橋組では二ヶ所のランチで約一萬英町を經營してゐるが、其一方の五千英町は灌溉をコロラド河よりの疏水



組織とし、一方は新たに二臺各七十五馬力のインヂンを据え、廿吋のポンプでコロラド河より一分間に六萬瓦宛の水を引上げるシステムでやつてゐる。之れに對して費用は既に六十萬弗も投じたが結果は頗ぶる好良で模範的と稱されてゐる。墨國に於ける日本人の人氣は頗ぶる好良勞働賃銀は一日目下五弗位、日本人は新たに入國する者稀だが、支那人は本年も既に千人位入つてゐる。之れから入國税一百弗、人頭税を一ヶ年に廿四弗取つてゐるのである。

桑港にある吉田商會の支店長吉岡金太郎氏は米墨國境一帶並に北低加州を視察(本年四月)して曰く『一兎に角墨國境に於ける棉花作は比較的容易な處へもつて來て、本年は棉花の市價が彼の通り好いからいづれも凄まじい勢ひで却々鼻息が荒い。目下勞働者は日本人は固より、支那人でもメキでも拂底で一日五弗づゝを拂つても容易に得られぬといふ譯であり、彼の邊では皆な米貨で支拂ひをしてるから危険の虞れはなし、棉花以外一般の農業でも漁業でも爲ることには山ほどあり。始業に比較的容易で利益も相當にあるから、何も苦しんで危険な米國なきへ密入國などする必要は無いやうに惟はれる。排日派の連中は何かといふと墨國に居る日本人をまで呪うて、すぐ密入國などゝ騒ぐが在墨日本人は鼻先で笑つてゐる。行つて聞くに北墨一帶

の地は案外に肥沃で農業には最も適し、何でも殆んど出來ぬものは無い位で邦人の農業者には最も適當してゐるさうだ。たゞ困るのは交通運輸の不便と輸出税の重いことである。過般も北加地方から幾組かの米作家連が出掛けて大規模の土地を契約し米田開拓の計畫を立てたさうだが、何分米はよく出來ても之れを米國へ入れるに先ち輸出重税をかけられる憂へがあるので、其れでは引合はず逡巡したさいふやうなことも聞いてゐる。米國の資本家等も低加州あたりの沃土へ垂涎し農業、鑛業、漁業などへ盛んに投資し起業せんとしてゐるやうだが何分例のカンツー將軍が頑張つてゐて一寸手を着けさせぬやうにしてゐるので困つてゐるらしい。然しカンツー君は孰ちらか云へば親日家で、日本人には大に好感を持てるから持つて行きやうによつては随分便利を圖つて呉れるから仕事は比較的易いともいはれてゐる。聞く所によると同將軍は獨逸系統の人で大に獨逸に同情を有ち同國戦後の窮狀を救ふの一助となさん爲め、低加州の内灣方面へ數萬乃至十數萬の獨逸人を移住せしめ、一大殖民地を作らんとし目下大規模の灌漑ダムを設計してゐるさうである。兎に角低加州は至る所富源に充ちてゐるから將來は在墨邦人の一大發展地ミなるであらう。目下國境一帶の地に居る日本人の數は恐らく二千人を超過しま



いと云はれてゐるが、未だまだ幾らでも收容する餘地はある。但し日本の政府は墨國へ移民を絶對に送らぬやうにしてゐるから此上大した増加を見ることはあるまい。然かし支那人は過般も六百ばかり着いたといふし其後續々渡來しつゝあるとも噂されてゐる。

棉花栽培に適當して居るのは、單に以上低加州のみならず、シナロア州の日墨産業の殖民地でも高橋農業士が全力を傾けて栽培研究した、結果頗る有望にして其質も亦米國産の綿花に劣らないとの確信を得たといふ。其報告書を見るに「乾燥栽培法では千九百十八年七月二十五日に播種した所が、發生伸長共に盛にして米國産を凌駕する勢があつた。開花の期間は長く十月初旬から十二月下旬に及び、果實の成熟は十一月下旬に始まり播種期は十二月、一月、二月の三ヶ月にわたる。次に灌溉栽培法では千九百十九年一月二十二日に播種してから六月中旬に至るまで前後五回の灌溉を施したが、七月の降雨に遭つて驚くべき生長を遂げ、四方に枝條を張つて植物の高さ或は一丈二尺を超えた者もあつた。棉花の成熟期は六月中旬であつて、六月下旬から八月初旬に及んだ。茲に尤も注意すべきは、此地方では霜害に罹る虞れがないかほりに成熟期が雨季に入る時は雨水のために綿果の品質を傷害せらるゝ、憂ひがある。故に灌溉法を用

ゐて栽培する者は其播種期を十一月初旬から中旬までとする必要がある。然る時は綿果の摘採は四月上旬から六月中旬までに行はるゝから、優等品を收穫する事が出来る次第である。右試験に用ゐた種類はロングステーブルに屬するグリーンゴー種であつた。同地方で試培して始めて得た收穫の量と米國加州の各地方で得た收穫量を比較すると左の如くである。

(生産地名)	(收穫總反別)	(平均一英町 綿撤糸産額)	(産出ベール數)	(收穫年度)
帝國平原	120,000 英斤	250 英斤	83,891	一九一八年度
ユマ地方	5,500	340	3,913	同
リバサイド郡	13,000	370	10,033	同
サンノキン平原	1,100	151	380	同
サクラメント平原	100	190	97	同
日墨植民地	—	175	—	一九一九年七月
同上	—	161	—	一九一九年二月

試みに北米合衆國統計局の調査に係る大戦前即ち千九百十九年から千九百十八年に至る十年間に於ける、米國各州の一英町の綿糸平均收穫高と、一英町の綿果平均價格を参考として左に



示す。

(州名)	(一英町綿撤糸) 十年平均産額	(一英町綿果) 十年平均價格
ヴァージニア	三六英斤	一〇、八
ノースカロハナ	二四〇	一〇、八
サウスカロハナ	二三四	一〇、九
ジョージア	一九四	一〇、九
フロリダ	二二六	一五、四
ミソリー	一九五	一〇、四
テンネツシー	二〇〇	一〇、七
アラバマ	一七六	一〇、八
ミスシツビー	一九五	一一、〇
ルイジアナ	一七四	一〇、七
テキサス	一七一	一〇、五
オクラハマ	一八二	一〇、一
アーカンソー	一九二	一〇、八
加州	四三六	一〇、七

綿花栽培が農家のために如何に有利なるかは今更いふまでもないが、墨國シナロア州附近の

作物として、從來重要な他の作物に比して、どれ程に有利であるかを調査したものと  
左の如くである。

二英町半の作物生産收支比較計算表

支	出	(玉蜀黍)	(ガルベンサ豆)	(棉花)
種子代	二、五〇仙	四、〇〇仙	一一、二五仙	
播種代	四、〇〇	四、〇〇	〇、六五	
ハラオ	一〇、〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇	
耕耘除草費	二、五〇	二、五〇	二、五〇	
刈取及摘採費	七、二〇	七、〇〇	九、〇〇	
農場内運搬費	二、〇〇	二、〇〇	一〇、〇〇	
脱穀俵装費	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	
倉物料	一〇、〇〇	一〇、〇〇	二、〇〇	
給水費	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	
合計	四〇、五〇	四四、〇〇	四五、九〇	



(作物名)	(玉蜀黍)	(ガルバンサ豆)	(棉花)
二英町半收穫	10俵	10俵	1,200英斤
一俵價格	7,50	25,000仙	綿果一英斤20仙
粗收入	7,500	250,000	150,000
純收入	34,500	100,000	100,110

(附記 墨國に於ける玉蜀黍、ガルバンサ豆一俵は、十三デカリットル即約百九十八英斤に當る)

棉花以外の重要事業としては甘蔗をあげねばならない。棉花と甘蔗とは墨國農業の二大生命であるを謂つてもよい。甘蔗は西班牙人が持つて來たのであるが地味に應ひて忽ち有望の事業となり、千五百五十三年には早くも母國に逆輸出するやうになつた。主として南墨の熱帯地方なら何處でも適して、植付後十箇月もたれば長さ二十尺、徑二寸程にもなる。其間鋤く必要もなければ灌漑の必要もなく、十年間位は世話なしに成長繁殖して一英町から三十噸乃至三十五噸の收穫があり、其内から二十噸乃至二十五噸の糖液が搾取され、其内の一割五六分が純砂糖になる。砂糖大根も亦各地に適當して十箇月にして收穫し得るやうになる。私は南墨のサンタ

クレシヤの旅館で一日本人に會つた。彼れの談によれば此附近に米國の資本千五百萬弗を投じた一大製糖會社がある。一時は事業を盛大に經營して外國に輸出してゐたが、革命馬賊から十萬二十萬と巨額の課徴金を取られるのみならず、米人たる故をもつて生命財産安全ならず、ために此有利な事業を中止して沖繩縣出身の一日本人に其管理を托し、希望者があれば投資をすゝるとの事であつた。私は此驛から更に南下してサリナクルズに出た所が、同港には特に此砂糖會社のために一大倉庫が設置されて立派な築港も出來て居たので、一寒驛に奇遇した日本人の物語が事實であつた事を知つた。彼は其時『日本人を二三百人連れて來て其餘は墨國人を備ひ銃器を持つて來ておけば安全に事業の經營が出來ます』と言つた。

棉花と甘蔗以外、日本人として恰好の米作に適せぬかと調査(本年二月)のために行つた在桑港山田農商務省練習生は曰く『視察の結果は意外に良好であつて墨國も米作地として將來有望であることを確め得た。私等の視察した地點は米國々境近くのカレキシコの方、低加州のメキシカリ附近の地方一帯であつたが、私等の心配して行つた米作に最も大切な灌漑の便も附近を流る、コロラード河の爲め水利が容易で、且つ河が耕作地より高い所にあるので、水利の便



が極めてよかつた。且つ降雨が少いので收穫期に際してコルサ地方で見る收穫取急ぎの心配も  
いらぬ。それに熱帯地方とて氣候は米作にもつて来いものであつた。併し水草が多少見えた  
が之れは熱い地方のこも、て一ヶ年位休ませて乾かせば自然に除去される。それに河水は常に  
濁つてゐるから水田に引入れた上で水を保つことも永い譯であつた。たゞ缺點は餘りに天日  
強いので乾燥に際しサンクラック、即ち俄に凝結した結果精米に際して割米が多く出ないだ  
らうかと云ふことであつた。附近幾十萬英町と云ふのは皆適當な米作地であつたが、之れは何れ  
も棉耕作した空地であつた。棉は同一地に五年以上は栽培が困難であるので此の空地を米に  
利用すると云ふ手段であつた、尤も借地料は案外に高かつた。』

#### 四 富源開發と日本

資本投下地としての墨國と。同胞移住地としての墨國と。それに日墨貿易上からの墨國と。  
此三方面から二國の富源開發と日本との關係を觀察するのが適當であると信するが、既に此三  
方面に就いては是が觀察判斷の資料を概ね提供したつもりである。

最近米國華盛頓に開かれた汎米商業會議の席上に於いて、墨國研究の權威者として世界的に  
認められてゐるロヂョ博士は、墨西哥の國情を詳細に陳べたる最後に曰く「墨國に投下せらる  
、外國資本は全然安全にして、今後としても一層確實に保護せらるべし」と。外國の資本家、  
殊に日本の資本家が、墨國投資を躊躇して居る所以のものは、同國の事情を詳にしない、即ち  
研究が足りないといふ事に歸する。彼の三井物産の如きも一時は墨國首府に社員を特派して  
たが、今は日本の實業に關係ある代表者は一人も駐在してゐない。日本の商店の如きも首府に  
はニュー・ジャバンと稱する唯一の商店が獨占的に大繁昌を極めて居るのみである。墨國は革命  
相ついで生命財産の保證なく投資するは危険であり冒險であるといふのが、日本資本家を一貫  
した最大唯一の理由でありとすれば、今日まで革命の騒亂の渦中に出没してゐた在墨日本人の  
中に財産上の被害者が幾人あつたか。生命の危害を被つた者が幾人あつたかといふ事を調査し  
て見たゞけでも、資本投下地としての墨國が、如何なる程度に於いて安全であるか、將た保證  
されるかを卜知する事が出来るであらう。現に墨國に大事業を經營して居るのは第一米人、第  
二英人。次に佛人。獨人。西班牙人、土耳古人等であるが、米國人と獨逸人とは單に經濟的の



目的以外に政治的野心と陰謀を抱いて居る。然るに此米獨兩國人が同一の道を歩んで居るに係はらず、米國人はグリーンゴーなど、嘲罵せられて居る（米人が日本人をジャブと罵るが如し）是れと反對に獨逸人は非常の歓迎を受けつゝ、あるのは面白い對照である。蓋し獨逸人の對外政策、移民植民の政策には確固たる根本的に一貫した方針がある。墨國に對しても彼等は西班牙語を學び、墨國人と交友し、永住的覺悟をもつて墨國婦人を妻とし、墨國の土地を購ひ、資本を投じて事業を營み、斯くて墨國人の心の中に巢喰ひ、政治外交の中に喰ひ込んで行く。彼の低加州知事カンツー氏が、歸化したる獨逸人を父とし、墨國人を母とし、その父をエンセナダの師團長に擧げて居るなどは其一實例であり、歐州大戰中に墨國が獨逸の同情者であつたのも其一實證である。而して獨逸人と共に、それ以上に歓迎されつゝあるのは我が日本人である。米國を最大として、加奈陀、濠州、新義爾亞、支那、南米等から排斥されつゝある日本から言へば、墨國は世界第一の親日國である。墨國人の對日表白は慥にそれがお世辭でなく繕り飾りのない眞實であり誠意であると確信する。而して米英佛既に投資して居るのに、世界第一の親日國たる墨國に、日本人として投資して何程の危険があらう乎。研究調査して施設計畫の

宜しきを得ば必ずや一大成功を期待すべきである。

同胞移住地としての墨國はさうかといふに、既に世界第一の親日國であり、日本人のために遺された大富源が、門を開いて待ち焦れてゐる以上、何で墨國が日本人の移住地として不適當であらう。前の駐墨大鳥公使の如きは「墨國は移民地に適せず」との斷案を下して居るが、私の調査觀察する所を以つてすれば、それは大なる誤謬なりとして訂正を要求する。現に徒手空拳の獨逸人、支那人、土耳其人、露國人等が立派に家門の繁榮をなし大成功を遂げつゝあるのは、移民不適の理由を事實の上に全然打消して居るではないか。私がメキシカリに行つた時取調べた所では、同市には五百餘の日本人に對して、七千以上の支那人がゐる銀行、病院、學校等を自ら經營しつゝあつた。昨今尙續々として入墨しつゝあるのは同地方視察者の報告の一致するところである。しかも同地方の如きは日給米賃五弗も支拂はれて、勞力の需求はいくらでもあるといふ事實があるではないか。中米南米を三ヶ年間來往視察した中村氏（山梨縣人）の如きも「南米は勞働するか、さなくば大資本を要するが、墨國はたとへ小資本でも事業を營み得る。既墾の土地が一英町墨銀十五圓位にて買はる。自分もガタノハラ附近に二百英町の既墾地



を買ひ、日本人に委託し置きたり。オレンヂの四年樹の畑が十五圓英町は餘りに安いではないか』云。私は日本の資本が投ぜられ、其資本に日本の勞力者（軍隊にすれば伍長か軍曹格の人）が伴はれ、日本人は監督者の地位にありて墨國勞働者を使役するを得ば、是れ實に理想的方法であると思惟すれども、其何れかを別々にするも亦必ずしも不可ならずと思惟する。即ち資本の投下のみならず可。數人、或は數十人相携えて移民をなすも亦可なりと思惟するものである。千九百十年の墨國半官報にも『墨國は小資本家の事業地として世界中他に比なき國である』と言ひ、今から三百年前に墨國を視察した西國のツコルラ大僧正は書遺して曰く『此國は甚だ豊饒な國である。金銀銅鐵の礦物に富んで居るが、それよりも食物の供給者として斯様な國は全人類の生存に必要な國である。然し如何に其土地肥沃なるにせよ、收穫せんと欲するならば先づ時かざるべからず、人が唯金銀探掘のために忙しく、耕農の業を等閑に附し置くは、將來廢頽する確かな兆候である』と。先見の明驚くべし。見よ三百年後の墨國は、三百年前の遺利を其儘そつくり包藏して居るではないか。

然るに在墨日本人の現状は果してさうである乎。日本政府者の年來の對墨政策は果してどう

であつた乎。昨年六月現在の在墨日本人の數は左の如くである。

	(首府)	(東部)	(北部)	(南部)	(合計)
男	二〇九	二四六	一、三三三	一六九	一、八六六
女	五	八三	三三三	三	四三三

その數僅かに二千九百九十八名にすぎない。在墨支那人の十分の一にも足りない。而して在墨同胞の中には墨國人を妻したるもの少なからず、いづれも生活に不満なく相當の活動をなすつゝあるのである。さて右公使館の調査に信を置き、試みに日本人を他の在墨外國人に比較すると大要左の如き事實を見る。

西班牙人	六〇,〇〇〇	獨逸人	五,〇〇〇
支那人	三五,〇〇〇	伊太利人	五,〇〇〇
米國人	一五,〇〇〇	露國人	二,五〇〇
英國人	六,〇〇〇	日本人	二,一九六

私の會見した内務大臣も、外務大臣も、新聞社長も、上下兩院議員も口を揃へて曰く『移民でも、資本家でも、大に歓迎して出來得る限りの便宜の特權とを與へます。農業でも、礦業で



も、商業でも、日本人の爲めならば最大限に開放致します。然るに何故か日本は移民や資本の投下を躊躇して居るやうです。是非貴下は吾等墨國人の心事と友情とを尊敬する日本の國民諸君に傳へて下さい」と。私はそれ等の人々の紳士として、政客として、外交官として、言論家として、其場限りの挨拶をするものとは思はなかつた。現に米人にも、英人にも、佛人にも許されてゐない醫師の自由開業を日本人にのみは許されて居る。此一事の如き亦如何に墨國及墨國人が日本及日本人に對しつゝあるかを觀察すべき一實例ではないか。先年革命戰中、メキシコ市の銀行頭取が高給を支拂つて急に一日日本人をば金庫の番人に備つた。その理由に曰く「革命軍も日本人には危害を加えないと信ずる。故に日本人を金庫番に備ひ入るれば、第一預金者が安心する」と。一笑話の如きも是れ亦墨國人の對日本人觀念を卜知すべき一實例ではない乎。彼等は眞に日本人と血統を同じくし、日本人は墨國人の兄弟姉妹であるとまで信賴して居る者が多數である。私は墨國旅行中、幾たびか其温い情愛と美しい友義に接觸し、心から墨國及墨國人を愛好せざるを得なくなつた。

然るに此日墨及日墨人の間に一大障壁を築いてゐる者がある。斯く言へば餘りに極端かも知

れないが、それは日本の政府、特に日本の外交當局者である。既に他列國の資本投ぜられ、既に他列國人の移住者あり。既に隣邦支那人の如き踵を接して渡墨しつゝあるに、日本政府獨り日本人の渡墨を禁止同然の現狀に置きつゝあるは抑も何んの理由によるか。日本人のために、日本人の來り開かん事を待ちつゝある世界の寶庫たる墨國の門扉を閉鎖して、日本人の入るを拒ばんで居るのは、米國ならず。英佛ならず。將た亦墨國自身にもあらずして、日本の政府、特に日本の外交當局者であるに至つては、抑も何等か重大の理由の存するか。否、私の觀る所では「米國の排日に恐怖せる結果なり」と斷案を下すより外ない。亦眞に然りと信ずる。日本の政府特に日本の外務當局は「墨國から米國に密入者がある。故に米國の誤解を解くためである」と稱し、而して眞に是れに依つて排日を緩和し得るものと信じて居るのである。貴族院の島津久賢男が本年一月の議會劈頭において此問題に關し質問した所が、内田外相は答えて曰く「日米紳士協約の結果、自由移民を許さないのである」と。是れ何よりの證據ではないか。然るに實際に於いて墨國から米國に密入する日本人は稀有にして近來は絶對にないと稱するも可なりではない乎(米國の排日觀參照)しかし彼等は斯くする事に依つて米國の排日を緩和すべしと思



惟して居るのである。然かもそれは恰かも米國議會で山東問題論争中、青島專管居留地を共同居留地とすると宣言したと同様。或は米國の排日形勢の昂進しつゝある最中に、自ら寫眞結婚者の渡米を禁止すると宣言したと同様。斯る迎合的、娼婦的、屈從的の宣言に對しては畢竟何等の反響も起らねば好感も酬るられず、全然何等の効果なきのみか、却つて徒に日本の與し易きを看破せられ、侮辱的排日に氣勢を添えるにすぎない結果に終る事は火を暗るよりも熾々たる事である。今や、日本政府、特に日本の外務省は、日本から渡墨を希望する者に容易に旅券を與へず。南米から轉航する者には立派に墨國領事の裏書きがあつても、旅券に日本官憲の裏書きがなければ(容易に裏書せず)監督會社に命令して乗船券を賣らしめず。甚しきは在墨日本人にして事業擴張のため、祖國日本から呼び寄せんとしても殆んど許可しない方針を取つてゐる。何たる淺ましい心事。何たる卑怯な態度。何たる屈辱的官僚的な見解であらう。若し夫れ我が外務當局にして戦々競々徒に右顧左眈しつゝ、依然尙今日の如くんば、大和民族の海外發展は唯絶望の一事ある而已。

## 米墨處どころ



黄に、紫に、燃ゆる斜陽に彩られた富士の神山が、絮のやうな一抹の白雲を曳いて空高く泛び、淡い涼しい夕月の影が、あるかなきか匂ふばかり其近くに産れた大和島根のたそがれに、つきぬ名残を惜んでからの私は、英領加奈陀のヅ井クトリアを経て、北米華州のシヤトルに上陸以來。央州ボートランド。加州桑港。ロサンゼルス。フレスノ。サンデイゴ。帝國平原から。カレキシコ。ユタ州のソートレーキ。格州傳馬。オマハを通過して市俄古。紐育州バファロ。ナイヤガラ。マアス州ボストン。紐育。華盛頓。ルイジアナ州ニューオリアンス。テキサス州サンアントニオ。墨國は低加州のテユアナ。メキシカリ。コワイラ州サルテイオ。首府メキシコ。ヴェラクルーズ州ゴルドバ。同州サンタクレシア。オアサカ州のサリナクルーズ等の重要な都市地と田園とをおよそ滞在視察して。一年有半の後に再び夜毎異郷の夢に入つた富士の靈容に迎えられた。今にして海陸二萬餘哩の長い旅路の跡を顧れば。思ひ出の種もなかくに少



なくない。其中からつきくと引き出して。

『米墨縦横』とは。北米大陸を横断し。大陸の太平洋。大西洋の両沿岸を来往し。さらに長驅して北墨から南墨へ一路縦断したからの命名である。

## 一 汽船から汽車へ

日記に曰く『八月。午後二時ヅ井クトリアに上陸。横濱出帆來十有五日。山や木や人やなづかし。いそくと大地を踏んで市街へといそぐ。路傍の家毎に植えたるいろ／＼の花の咲き亂れたる。その花の中に埋もれて仕事する一老人に州廳の所在を問へば『まア、どうぞ家にはいつてお茶一杯召あがれ』とすゝめ。巨大なる片手を差のべて握手を求めつゝ。懇切に何や彼と教ゆるさまの。花と共に人の心も匂ふ心地せられつ

言の葉はわからぬ節のありながら

こゝろの花の匂ひゆかしき

名に負ふ州廳は高く入江に臨みて建つ。純英國風の大殿堂にして構造雄偉。廣き庭苑は開放

されて自由に行遊を許したれど。塵毛一本散らさず。紙片一つ落さず。花壇のつくり。岩石のあしらひ。虹を宿したる大玄關正面の大噴泉。いづれは堂尻と落付き拂つて見られたり。

市街は海岸電車通り最も繁華なり。支那町の一區域を劃したる邊より。町は傾斜面を上にとつゞく。私はY君と一緒に裏通りを巡つてビーコン公園に遊ぶ。一帶の山にして巨樹鬱々。天然林を利用したる處。あたかも我が鹿兒島の城山公園に似て。しかも廣大にして各種の設備遺憾なく行届きたり。

折柄幼稚園の兒童にや。男女打群れて運動機の下に猿迂りや。鞦韆や。梯子登りなどなしつゝあり。其近くに小やかなる動物園やうのものあり。園の金網の前に。手巾を結びつけたる棒を持ち。頻に檻の中なる兒豹に戯るゝ少女あり。戯るれば戯る程。兒豹は怒り猛りて跳び躍るを見て手を拍つて喜ぶ。なか／＼に面白ければいつしか私も少女に向ひ『手巾を高くあげよ』と言へば。豹はます／＼咆哮怒叫して目を剥き牙を鳴らす。思へば大人氣もなき事してけるよ。獨り呵々と快笑すれば。彼の少女等も始めて我に歸りしもの、如く。羞を含んで微笑しつゝ。芝生の花を摘んで一部を豹に投げ一部を私共に贈れり。姉は十ばかり。妹は七つにもなりつる



か。駱駝の毛よりも柔かに金色に輝ける髪の毛。うすく白く高く品格ある鼻。碧けれど大きく  
すゞしき眸。燃ゆるやうに紅く細き唇。

◎

日記に曰く『午後九時半シヤトル港に入る。夜暗けれども街巷一灣を繞ると覺しく。幾百  
千さなき燈火。或は高く空に。或低く地に。或は螢の如く群れ。或は星の如く散り。或は花の  
如く華やかに輝き。或は故の如く美しく列なれる。折柄香取丸の機關長は語る『私が初めて當  
港に來たのは明治二十九年で。郵船會社が航路を此處に開いてから第三回目の航海であつた。  
その頃私共の船は三千噸級の小船であつたが。今は一萬噸の船になり。その頃當市の人口は二  
十萬足らずであつたが。今は五十萬近くに増加し。輸出入貿易額の如きも桑港を凌ぎ。紐育に  
つぎ。全國中の第二位を占むるに至つた』と。野間船長も『シヤトルが斯く長足の發達をなし  
たのは。全く日本が航路を開いたからの事です。何しろ桑港から東洋に往復するのに比べて。  
一週間以上の短距離になりますからね』

◎

日記に曰く『一二等船客の上陸後。三等船客は一足おくれてぞろぞろと出で來たる。中に  
は和服着たる妙齡の日本婦人多し。多くは一葉の寫眞を懐中ふかく忍ばせ。萬里の波濤を渡つ  
て言葉も通ぜぬ異國に來たれるなり。寫眞の主は海外雄飛の日本男子にして。或は五年。十年  
相見ざる人。或は曾つて相見たる事なき人。その人々に弱き女の一生を托すべく遠く亞米利加  
の野に町に慕ひ來たれるなり。彼女等が新生活に對する希望と歡喜の中に。一種の不安を抱  
き居るは。彼女等が寫眞の主を探すべく四方に放つ利那の眼眸にも知らる。彼女等は税關を通  
過するも其儘市には許されずして。一たび移民局検査の關門に送られて。寫眞の主と完全なる  
了解を得たる後にあらざれば。自由の進退を許されざるなり。彼女等が身づくろひを正しつゝ  
税關に向ふ行列を見て。その優しく雄々しき心根に想ひ到り。私は唯何となく涙ぐまれたり』

歌一首

いろ／＼に咲きこそ誇れ亞米利加の

町に野畑に大和なでしこ

◎



ワシントン湖畔に自動車をこぼす。湖畔の公園に花崗石の五重塔を見出した。一木一草。悉く異國の色に咲き彩られたる中に。風致おのづから珍らしいので近寄つて見ると、松方幸次郎氏によつて建立寄贈された由來を記す。氏は市街に大きな地所をも所有して居られるとの事であつたから。此繪葉書を求めて松方老侯に贈る。

ある日の夕べ。質素にてし新らしからぬ背廣服を着た赫色圓顔の一日本人が。シヤトル第一流の新華盛頓ホテルに宿を求めて帳場に立つた。應接の番頭君も折角見えたものを謝絶するの氣の毒の事に思つて。此ホテルの中で最も見すばらしい一室が與へられた。此日本人は。たゞ何事も唯々諾々として。しかも日本人のすべてを背負ふやうな態度と襟懐とを示してゐる事を發見するには。餘りに宿の番頭の目は商買人でなかつた。

その後程なく。武勳赫々として東洋のネルソンと謳はれた世界的の偉人アドミラル東郷が。大陸への旅の途次此シヤトルにやつて來られた。ホテルの主人は東郷大將のために。會つて閑院宮殿下の御投宿になつた室を大將の室に充てやうとしたら大將は「恐れ多い」といつて、其室には入れなかつた。話が、はつて大將の投宿せらるゝや。彼の新らしからぬ背廣服の一日

本人は。その儘の姿で作り飾りもせず。すぐに大將の室の扉を叩いて。子弟の如く親父の如く。しかも謙抑にして何等の隔てもなく大將と極めて親しげに何吳と物語るのであつた。それがホテルの評判となつた。ホテルの主人は隨行の人に「あの日本人は一體どんな人です」ときいた。隨行の士官が「日本一の造船所の社長で。松方幸次郎といふ人です」と答へた。

ワシントン湖畔の石燈籠の贈り主も。おなじ其幸次郎さんであつたと。私共を案内して呉れた人が。湖畔をめぐりながらの物語。ゆかしきまゝに如書。

◎

シヤトル市に。市俄古以西第一の高樓がある。四十二階の頂上の一室は支那室である。しかも此蟹文字の國に漢文をもつて高樓の來歴を記したのが面白い。曰く

四十二層。司密樓。舍路發達氣象之一表示也。此樓浩大。裝備完美。其構造重而堅。内宏辨事處六百店戶。六餐館。二吸煙館。此樓司密之子。奉乃父遺志而建。遂以文名而表誌之云。別に書して曰く

華省材木植億兆且永増。華省年出材供全球用。



舎路地枕雪峰高山仰止。舎路城中屋宇錦繡如畫。

欄に倚れば長汀曲浦脚下に展け。アダムスの連嶽。タコマ富士の高嶺。いづれも雪を頂いてワシントン湖をのぞひてゐる。

◎

ボートランドは太平洋岸の京都と言はれてゐるが。薔薇の名所として知られ。此處のバラ祭は米國の呼び物らしい。山のすがた艶に。水のながれ清く。車窓のながめ美しいオレゴン山中に入る頃は夜色すでに深し。夜漸くあくれば。此あたり重疊たる森林にして。草葉の露に爽やかなる朝冷を覚え。夜半の酷暑も洗はれたやうになつた。あたかも夜半飯田町驛を發して甲州路に入り。高く登つて富士見邊の黎明をすぎるに髣髴たるものがある。列車はシヤスター・スプリングに近づきつゝある。正午の頃となれば景は轉一轉して甲州から一躍して方角違ひの薩州に飛び。ループ線を這つて矢嶽峠をすぎるが如く。巨木の林立した中にボビユラに似た樹の葉が。吹きおろす山風に裏を返へして烈陽に輝くのが白銀の粉を噴くやうである。

シヤスターの山は太古の雪の冠をかぶつて悠然と行く手の空に現はれた。シヤスターと姉妹

のやうなミュアスも亦其近くに現はれて來た。列車は此美しい姉妹二つの山を。右に左に。或は樹々の梢に望み。或は谿峽の空に仰ぎつゝ。

## 二 太平洋沿岸にて

ロサンゼルス市のターミナル・マーケットは世界一の青物市場であるとの話。郊外は勿論の事遠きは四五十哩の田舎から。毎日午前二時の開門を待つて雪崩れ込む數百千の荷自動車。馬車の上には採立ての新菜新果が。こぼるゝやうに積まれてある。それ等の運搬車は中央の三四町方もある大廣場に四列に整然と並べられる。大廣場を壁のやうに取圍み建てられた家屋の中には。卸賣。仲買。銀行。農業組合等の事務所。電信電話局。料理屋。理髮店等が約六百餘戸あり。大家屋の後方には貨物列車が横付けにされる程の大規模である。

季節々によつて此處に遠近から運び込まれる青物は。其日々の午前十時頃には大方は刺さず四方に捌けてゆく。近くは沿岸各地。遠くは。市俄古。紐育。華盛頓其他の各都市。近時は大西洋を渡つて歐州の大戰場にまで。朝々夜々。殆んど間斷なく供給されつゝある。然らば



山積する其新鮮にして廉値なる野菜は何人によつて栽培され。供給されるかとたづねて見よ。過半以上吾等の同胞日本人の汗と力の結晶である。マーケットにも自然と日本人の勢力が侮り難い程に打込まれてある。日本人の加州産業に寄與する事蹟のいかに偉大なるかを知らんと欲せば。午前二時此マーケットを訪へ。

なに事かなしてならざる同胞の

ちから協せてつとめはけまば

◎

羅府在住日本人だけで最近買入れた日露戦争當時の英貨公債約六十萬圓。米國新公債約七十四萬圓。紐育生命保險契約高昨年三十萬圓。今年上半期に四百二十萬圓。日本赤十字社正社員新加入者六百餘。米國赤十字社へ四萬圓。明治神宮建築献金七萬四千圓（此額は内地の大府縣の一縣献金額に相當す）以上大正八年六月調査。其後米國公債其他の應募は倍加し居れり。

◎

加州の自動車數約五十萬臺（一九一九年現在）此内過半数はロサンゼルス市郡にある。在留日

本人三萬が所有する自動車數は。東京三百萬市民の所有する自動車數に對等してゐた。加州の自働車が。一臺平均四人を乗するとすれば二百萬人を一時に乗せ得る。若し一旦緩急あり。すべての自働車を徵廢すれば。加州は一日にして二百萬の軍隊を。自由自在に。或は數十哩の前進め。或は數百哩の後に退かしめ得る勘定となる。

◎

日記に曰く『一九一八年九月——排日は何處にもなし。日本の國體や政體。日本人の精神や生活が次第に理解された結果であらうか。排日の中心地域として聞いてゐた沿岸を米人と共に旅行し。同胞と共に暢談して。排日に對する豫想の裏切られたる心地する。一日本人は曰く『排日は消滅せり。米國人及び其新聞も。從來の排日は獨逸のプロバガンダの結果。即ち所謂獨探の行爲であつたと言つて居るが。自分等もさうだと思つて居る』と。果して然る乎。一新聞を見ると。桑港に開いた沿岸各地日本人會の幹事總會に出席したる加州國防委員長代理ネクレー委員の所感談が出て居る。その中に曰く『米國が歐州の彼岸に對し舉國戦争しつゝある今日。日本人が米國のため農業。商業。漁業等に大々の貢獻をなしつゝあるは、吾等の深く衷心から



感謝する所である。一時、日本人や支那人の労働者と言へば、或る部落から色眼鏡をもつて睨まれた時代があるけれども、今や何國人何民族たるを問はず、斷じて左る事はない」と。果して然る乎。然りしすれば米國及米國人が大戦に参加した後、自國及自己を後援する國內に勞力が不足した爲め、排日に對する今日までの態度を内省するに同時に、從來米國に對する日本人の貢獻の如何に強大であつたかを覺知し認識するに到つたのは、たしかに大戦參加の反響として、喜ぶべき現象と謂はねばならない。』

日記に曰く「一九一九年二月——いつぞや『排日消滅す』と日記に書いたが、あれは日本人として見當違ひであつた。私としても觀察違ひであつた。米國としては一時を胡麻化す御挨拶、極端に言へば全く作爲的の欺策であつた。その證據には休戦の新聞號外の鈴の音と共に日本人排斥は、戦前よりも猛烈に簇々として雨後の筍のやうに現れた。獨探のプロバガンダでも何でもなかつたのである。要するに彼等は戦時中、日本及日本人に悪感を持たする事が、國內的事情に於いても、國際的關係に於いても、共に米國及米國人のために不利益であるといふ利己的打算から來たのであつた。あゝ、日本も欺かれ、私も欺かれ、在米同胞も欺かれてゐた。私

が東京を發つ數日前、先輩の或人は曰く「米國は正義の外交、理想の政治をなす國である。西部を見たら早く東部に行き給へ、眞の米國は東部にあるから」云。或は然らん、然れども、私は米國は正義、人道、自由、平等に對し反逆の國であるとの觀念が先入主となつた。或は知らず、眞に米國の對日政策と米國人の對日感情とを代表するものは、東にあらずして所謂ワイルド・ウエストにあるのではない乎。』

◎ 『マウント・ロウに登りて』

事しあれば相倚り相親しむ薩摩の國の人々相語らひて去んぬる二十二日の日曜日、集まる者三十餘り、特別電車を備ひてマウントロウに向ふ。車中は素より隔てなき友垣のみ。

心置く人もなければ自から

國訛りゆく汽車の中かな

バサデナの街をすぐる頃より曇れる空は雨となり、雨にぬれたる路傍の柑橘園、緑の色濃やかなる中に黄ばみたる實の殊更にめでたし。さあれ斯る日に山登りとはさても物數奇なる日本



PRESERVE MISSIONS FOR POSTERITY



リよ開新國米の州加

の人々よと、異國の人々もさぞや驚き居るならんなど、問はず語りに笑ひさどめく

降る雨に勇むもうれし人々の

思ひになさか空の晴れざる

強かりをこそ言へ、胸の中にはたまさかの計畫なるを、何の怨みかあると、天を仰ぎて言ふばかりなき心を包むもおかし、やがて経るともなき時の一時間も経たりけん、電車は頭をたて、次第に爪先きを上げぬと覚えしが、早や既に山の麓に来つるなり。

雨としもなく、將た霧としもなく恨みの霧雨を分けつゝ程もなく音に聞きし傾斜路にて車を替へ、その急傾路を二條の鐵の綱にて登る。

二すぢを命の綱とたのみつゝ

のほるは雲のかけ橋にして

再び電車の人となりぬ、やれ一ミまづ命に別條のなかりしよと互ひに祝き合ふもわざとならず、電車は又しても霧雨に閉ぢ罩められたる山の半腹を、蛇の如くにくねりうねりめぐりて登りゆく。ふと目近き下を伏し瞰むに、あな危し、あな怖し。



幾千尋底ひも分かぬ谷の上の

あやうき路をたどり行くなり

友連れの中に四五の夫人あり、あつと魂消るばかり恐れ戦けるも理りあれや。指一つだに觸れなば落ちん千仞の削れるやうなる断崖の、あるは下をあるは上を、猿の如く渡りゆくなり我等の電車は。

霧ありて斯許りなるを晴れゆかば

いかに險しき眺めなるらむ

あゝ自然の力強きか、自然を征服する人の力強きか、自然と人との戦ひは今し亞米利加の野に山に街に、瞳々ミ鯨波の聲をあけつゝある心地せずや。

岩を破り山を貫き、雲に乗り風を禦す言はゞ、物の譬への當らずとも、聊かその態を想像る料ともならんかし。登りくゞて五千尺といふあたり、巨木森々晝なほ暗き深山の中なるに大きなホテルあり。ホテルには美しく粉ひ軽く装へる男女の群れ居るあり。ホテルの周囲にはマツチ箱を並べたらんやうなる貸家あり。貸家の冠木門にはいろいろと風流氣なる名を掲げた

る、いづれは棄て難き趣あり。

柚人も住むまじものを斯までに

深山ひらきて人の集へる

此處よりは徒歩にて異國の人々も諸共にわけ登る。細き路々の岩が根には鼠に似てやゝ大なる怪禽長き尾を帆柱の如くにして走り、樹の枝には名も知らぬ珍鳥の美妙なる聲を惜まず啼く音もうれし。

深山路に名もなき鳥の啼音して

旅の憂き身を忘れ果てつゝ

喬木帯より灌木帯に入る頃には空より日の光照り輝きて、人々の思ひに雨の晴れたるよこ、一行には一しほ氣立ちて足も軽く駆け登る輩もあり。樹蔭に立寄りて遙かに見渡せば山の麓は霧なほ深く閉して山の頂きのみ獨り晴れたるなり。ホテルの所在より二哩半と道しるべせるがなか／＼に遠くして足歩一步になゆ。殊に此朝二歳に足らぬF君の男の兒を勧め伴ひたれば、砂石の道のさらぬだに足の重きを覺ゆ。



西東ことわきかぬる縁兒も

雲わけ登る今日の旅かな

仁者は山を愛すとかや。此兒生ひ立ちなば念すらくば山を愛して予が心つくしに酬るよ。後れたる人々と共に一樹の蔭に他生の縁をむすび、おもひくゝの糧を開くにいづれもパンのみにして、汁氣一つもなければ、梅干を思ひ、酸を思ひ、平沙茫茫限りなき沙漠の中に滾々として湧く泉を思ひ、あらゆる努力を傾けつ、唾液を催せども容易の業ならず。かゝる折には西洋人の食物とやらんは、梅干あんこの握飯に劣ること正に數等。

折柄婦人にして男の装束ひせる異國の人々馬上豊かに打たせつゝ登り來たるあり。中に犬の如き驢馬に跨れる一婦人の足の餘りに長くして、地をすれくゝなる、後よりながむれば眞に珍重すべき一幅の漫畫なり。前に日本衆議院の島田三郎議長は、泣くが如く笑ふが如きあの御面相にて、此ドンキー君に跨り悠々緩々登山召されしと聞き、獨り腹を抱ゆ。

かけ渡す雲の羽衣ふき晴れて

峯より峯にわたるやま風

ウキルソン山へは此處より更に四哩なりと記せる道を左に取り、山の頸とおほしきあたりを一めぐりせるに、辛くも六千一百尺の頂きに達したり。先着の人々は、早や山の神を祭りて涼しき木蔭に臥せるもあり。寫眞撮らんきて群れ騒ぐもあり。異國の人々も此處彼處に逍遙ひつゝあれよゝと指さす方に、うれしや麓の霧漸く晴れて現はれたる街や、村や、山や、水や、白き紅き碁盤のやうなる路、波のやうに起伏せる丘、壯觀と言ふは當らず、かゝるはげに美觀とこそ呼ぶべけれ。

美しき眺めなりけり霧晴れて

麓の村の繪にせまほしき

消残る狭霧曳くなり山の端に

春や來ぬらし春ならなくに

午後一時こいふに山を下り、五時半にホテルより家路につく、歸りには霧の遠く晴れたれば險しき路のさらに險しき心地すれど、馴れたるにや先程には魂消ける事もなく、七時半といふに羅府に歸り一料亭に卓を共にし目出度き盃をあけて、たのしく面白かりし一日と人々の健康



を祝ぎ別れしは夜も早や九時を過ぎたりけん。(一九一八年九月二十三日夜記)

◎

M學兄、案下

その後ますます御健在の事は、その日くの紙上で拜察して居ります。私は電話でお話し申上げた翌夜、半歳の長い間住み馴れた美しいエンゼルの市を去つて、その翌々朝、ネバタ大沙漠の中に極めて手輕に建てつけられた此工場町に参りました。

此町は戸數六百、人口三千、ロサンゼルス。ソートレーキ鐵道の機關工場によつて支持されて居るに申してもよい町であります。そして比較的低級な單純な小さな米國ミ、米國の勞働社會とを雜作なく見出す事の出来るやうな町であります。

私は到着の翌々日から掃除夫の名に於て、此工場に於ける最下級の勞働を與へられました一日九時間、一時間三十七仙五厘の給金を頂戴して、朝から晩までジャツプンと呼び立てられながら、イヤといふ程塵埃によごれた機關車の垢を落すこと既に月餘に及びました。おなじ垢落しにしても湯屋の三助ならば時にはまだいくら面白味もありませうが、いくら紡績屑を持

つて一生懸命にやつても、非情の機關車掃除は到底お話しになりません。

私の體力には一日九時間は過勞であります。けれども私には所謂排日と勞働問題に對し、より多く、より深く徹底したい接觸したいこの焦慮と慾望とが私の氣力を旺盛にして居ります。

『あまりに物數奇すぎる』と歸羅を促す友人もありますが、私は事の結果は別として、頻々として渡米する母國の視察者が太平洋沿岸の米國ミ在留の同胞とを外からそつと覗いて、それで満足したかに匆匆として去るを不思議にも不満にも、將た残念にも思ふ一人であります。私は今次の旅行中、最も意義ある最も尊い經驗として愉快に且つ忠實に四五百の歐米人、墨國人、印度人、日本人の裡に、五月中旬まで一介無名の勞働者として没頭する考へであります。たゞ此鐵道の歴史と此會社の方針とは排日と對面し、勞働問題に接觸するに極めてその機會が乏しいやうですが、それでも内から覗く事になつた私には、すでに多少の獲物がある筈だと思つて居ります。——此鐵道は日本人が請負つて布設したのださうです。

米國に於ける日本が散々である以上に、巴里に於ける日本は更に慘々の態ではありませんか。餘談はさておき、何れにしても五月末には、私の新經驗を直接貴兄に物語り得る事と存じます。



御存知でせうが此頃の沙漠の町には棉の木の花のこぼれるのがまるで吹雪のやうであります。中には少数の柳もあるにはありますが、加州に見るやうな赤い鮮かな青春の人々のハートのやうな花は、空にも地にも一片だにありません。たゞカットンツリーのみが、之れから焦けつくやうな沙漠の夏を蔭する唯一の緑らしいです。左様なら。(一九一九年四月最後の日曜日記)

日記に曰く『一九一九年五月——ラスベガスの二ヶ月は渡米中は勿論、私の一生を通じての尊い経験と智識とを得たやうに思はれる。私が二ヶ月の間に懐中にした給金は百數十弗で、私の生活費には足りなかつたけれども、私は精神的には充分の満足を得たやうに思はれる。私が第一に感じたのは米人労働者が規定の時間中には煙草も吸はず、腰も掛けず、營々働く事であつた。たゞ欧州から来た移民労働者の中にはなか／＼ツルイものがあつた。亦勤儉貯蓄にかけても日本人よりはまさつてゐる事を知つた。また日本人としては力業に於いては到底白人労働者には及ばないことも知つた。或日私は石炭を機關車に積込む役目を命ぜられたが、私の力では逆も石炭をシヨベルで投げ込めなかつた。監督の白人は自ら私のシヨベルを取つて教へて呉れたが矢張り駄目であつた。先日も材木の運搬を命ぜられたが、私にはどうしてもそれが動か

せないのを見て、相棒の墨西哥人が私の分まで働いて呉れた。私は其後ジャップと呼ばれず、

『トオケフ』と呼ばれるやうになつた。監督が何處かと聞いたので東京だと答へたので。』

### 三 大陸を横断して

『大陸横断だより』

ロサンゼルスを發してソートレーキに到る列車の寢床の中にて、南京虫に襲はれたるは先づ振り出しの縁起悪し。殊に左の眼蓋をやられて、あたり男振りを下げたるは、多妻宗<sup>モルモン</sup>の御本山詣でに御利役もいかゞかと氣辛くも覺ゆ。

◎

何は兎もあれ縁起直しにと、同行の堀君とユタ日報の後藤君に導かれて、久しく音に聞きたるモルモンの本山に詣つ。豫想を裏切りて『はゞ之れか』と思はしめたり。第一は建築に、第二は位置に、京都に行くたびに小生は西本願寺よりも、智恩院を拜み居るせいかも知れず、唯驚きたるは、開祖の毅然たる勇猛心の跡と、此御本山がユタ州の政治上に抜くべからざる



威力を有する一事なり。市に於て三分の一。州に於て三分の二の信徒を有する御本山の一擧手  
一投足は市長の選出議員の選挙を左右する、例令ば舊墨國に於けるカトリック教の如くである  
宗祖ジョセフ・スミスは我が日蓮上人と意氣相投するの類乎。當年の開祖は宗教の根柢を培ひ、  
その振興を策するには、先決問題として信徒の多産を奨励するにあり。多産を奨励するには、  
多妻主義を唱ふより捷徑なるはなしとしたのでない乎など。

◎

鹽湖ソルトレイクより特にリオ・グランド線を擇ぶ。此線は小刀細工的に趣の雅なるはなきも天斧一撃氣  
の雄なるもの、峽中の車窓を歴する巨巖巨石に於て見るを得たり。グリーンウッド・スプリングの  
河畔、やゝ風趣の掬すべきものあれど、小生は寧ろ一萬尺の高原、テンネッシー・バスの秋色を  
愛す。野草には黄色をながし。樹々は朱紅を染めたり。中に小さき名も知れぬ色々の花の咲き  
競へるは萬里行路の客人をして襟懷を展かしむ。小生は所謂「風情」論者にして、愛する中にも  
「風情」ある人、「風情」ある景を酷愛する一人なり。

米國の人、米國の景には「風情」なし。故にお氣の毒乍ら予は其人其景を酷愛し得ず。

◎

豫定を變更して傳馬に一宿す。翌日は早野君の東道にて三個所の公園を見る。蓋し他に之れ  
ぞぞ見るべき所もなきを以てなり。

在留日本人凡そ三千。此内市中にある者三四百。他は悉く市外遠近にありて農業に従事し、  
その勢力なかく侮るべからず、小生は見るべきものなき傳馬に於て此一事を耳にして、快心  
禁すべからず。排日法が前州議會に出かゝつたさうなれどもものならざりし由。排日何ものぞ  
實力を養ふべし。小生の唱ふ實力に二つあり。一は經濟的の基礎を確立する事なり、例令ば土  
地を買ひ、會社を興し、事業を經營するが如し。他の一は盛に子女を産みて世界に誇るべき優  
秀なる大和民族を扶殖し、其の正義、自由、人道を展開して米國人の盲眼を啓發するにあり。  
傳馬デニガイを發してより、夜明けて翌日に亘れる一大平野は、如何に米國が大なる國、豊なる國な  
るかを立證するかに、一望萬里海の如く、此國にして日本農家を排斥するの天理に悖るを痛切  
に感ぜしめたり。早朝オマハ驛にて買ひたる新聞を讀むに、前日黒人の私刑ありたる記事にて  
數頁の紙面を埋めたり。吁！慘なるかな。



市俄古は桑港に比して、羅府に比して、はるかに古く、暗く大なる江戸時代の暖簾をかけた  
る如くもあり、小生をして大阪を洋式に改造したるが如き觀をもなさしめたり。

屠獸場に白人奴黒ん奴の穢多連の機械的に作業するを見物したるが、小生を驚かしたるは米  
國ハ白慢のストックヤード。即おのく一時間三百頭、一日三千頭の牛。一日一萬二千頭の豚  
を殺す五大會社にはあらずして、過般當市に爆發したる黒人と白人との戰爭的鬪闘なり。傳ふ  
所によれば黒人の殺されたるもの、たしかに五百以上千人に及ぶ。小生は野獸性を曝露した  
る白人共が、いかに群集していかに黒人を慘殺せるかを、最も有力に物語る一物を得らるべき  
豫期あり。一夜日本人青年會館の集會に列し、島津會主の献身的努力に感嘆し、此處にも將來  
多望なる頼母しき若き大和民族の多くを見るを得て、小生は到る處實に愉快なる旅行をつとけ  
つ、あり。

◎  
食堂に於て一百姓と一青年と一老婦人の知己を得たり。言ふにも足らぬ少數の人々なれど、

其人々を通じて幾分にも日本を理解せしむべき端緒とするを得ば、此旅は決して徒爲ならず。  
否大に有意義なりと申すべくや。

鬱陶しかりし市俄古の曇雨よりのがれて、湖江の畔に沿ひつゝ、走り走れる列車は、今より一  
時間ならずしてバファローに着せんとす。小生に隣りせる椅子車の中に、金錢を賭してトラン  
プを遊ぶ米國の二青年あり。勝敗一回五仙なるが如し。日本にては一寸見られぬ圖なり。(半月  
列車の窓に高く清く秋涼と共に音づれ來たる十月三日午後八時半)

◎  
日記に曰く「一九一九年十月——夜遅くバファローにつき、案内記で見たる一旅舎に投ず。廣  
告とは違ひあたかも京都見物にまかりて客引に袖を引かれて泊つたやうな宿屋也。翌くる朝早  
く電車からナイヤガラにゆく。すゝめらるゝま、驛前の自動車に飛び乗りて遊覽す。瀑布は英  
米兩國領土の境に二つあり。米領にあるは高く懸りて其幅狭く、直下千丈の白布を垂れたるが  
如く水勢殊に激し。英領にあるは馬蹄型をなして其幅廣く、千軍萬馬の總攻撃を開始したるに  
似たり。鞞鞑として雲を噴き霧を吐く瀑壺は折柄の朝日を受けて彩虹を孕み、一望の雄觀、人



をして壯快恍惚たらしむるものあり。

鳴る神のすみかもかくや天地に

◎ ころきわたる大瀑の音

ボストン驛に着いたのは秋雨をほ降る日曜の朝の六時であつた。驛の簡易食堂に失敬してオートミールを啜つてゐると、毛唐等が頻りに白耳義皇帝陛下の噂をしてゐる。兩陛下が今朝紐育からボストンを訪はれるらしい。足をブラットホームに返へすと、なる程陸軍の軍人がいつの間にか行列して居る。きいて見るに果して程なく兩陛下がお出になるこの事、ボストンには知人もなし豫定もないまゝ、構内群集の仲にはさまつて其時を待つ。ものゝ一時間もたつた頃、ブラットホームから自働車に陛下は市長と。皇后宮は市長夫人と同乗して群集の間をわけてゆかれる。カーキ色の軍服をめされた陛下は鼻眼鏡をかけて居られる。其お顔はやゝ長面にて其血色はいかにも軍人らしい。雪白の洋服をめされた皇后宮は中柄で、今しも白耳義出身の一少女がさゝけた小さな花環を片手に受けさせられ、微笑黙禮して花を臭ぎつゝ街へと去られた。

亞米利加獨立の第一の烽火をあけた雨の古戰場に自働車を驅る。一路坦々、萬樹紅葉して満目の風色微酔を催し、當年革命の志士に灑がれた紅の血潮と勇武と義烈とに榮え輝くかと覺ゆる。午後は博物館に暮らす。日本の美術品、刀劍甲冑の類數棟に陳列されたのを觀ては、かねて人傳てにきいて居たよりも意外に夥しいのに聊か驚かざるを得なかつた。中に光琳の浪に旭の六曲一隻は、満場を壓し澎湃たる浪が躍つてゐるやうに、身のボストンにあるを忘れ、歸るを忘れて時久しく見惚れつゝ其前にたつてゐた。

#### 四 大西洋沿岸にて

『紐育から日本のY君に』

紐育は内容外觀ともに人一倍に自負心の強い小島國民を驚かし申候。否寧ろ脅かし申候と申すが適實なりと存じ候。

上に高きは二三十階は普通にて、五十八階建の摩天樓あるにて知らるべく。下に深きは地中を縦横無盡に駆けまぐる鐵路にてトせらるべし。横に廣きは芝居を見ても、料理屋をのぞいて



も、路をあるいても電車に乗ても、之れはく〜とばかり、自動車を飛ばすよりは膝栗毛の方が早い事にて察せらるべく候。五街やブロードウェイはそれが實際にて、芋を洗ふが如しとは斯る景をや形容せるならんと、上下左右共に空恐ろしく穴賢と存じ申候よ。

唯二つ、此グレート紐育の中に『はてな』と小生に感興を與へたるものあり。それは例令ば巨象に這ひまはつて居る風のやうな電車なり。形は潜水艇型にも申すべくや。その走る態は一寸坊が道を急ぐの状ありて殊の外に趣あり。他の一つは貧民階級の町を視察したる時、路傍に見すほらしい子女の群遊し居たる景なり。きけば多くは伊太利移民なりと。さもありません。米國人なれば間引きをする筈。米國における伊太利人の將來は必ずや興隆すべし。間引きや、避妊や、壓殺。之れ等は民族漸滅、亡國の第一歩なり。

ある日、五十八階のウールウオースの頂きにのぼる。普行、急行、特別急行の三大昇降機あり。特急を擇びても尚頂上に達するには五分餘を要したるが、之れが降りとなると、紐育から地球の中を突き貫けて、一氣に日本に歸ればせぬかと思はれる程の勢ひにて氣味が悪いやうにて候いき。ある夜オヂトリウムに芝居のやうな曲藝のやうなものを見物にまゐり候。君は其處

の舞臺に幾人の役者が現はれたりと想像し給ふや。小生は試みに算え候得共なく、數え切れぬものにあらず、恐らく男優二百、女優三百以上との見當をつけ申し候。即ち五百の男女が揃ひの服裝で踊つたり跳ねたり、はては舞臺一面が大きな湖水となり、數隻のボートを浮べて遊泳競漕するに至つては、國技館なき、とても近寄れ申さず候。ある夕、イーストリバーの橋上にさまよふ。橋の上下に七條のレールが布かれ、おなじタイムに四十餘臺の電車が此橋上を駛りつゝある光景を見出し候。是れにて其橋の長さ、大さきを御想見下されたく、殊に河の兩岸に櫛の齒の如く聳ゆる高塔大廈の美しさは、餘焰の如き夕陽の中にて、所謂市街美の極致を現象いたし居候いき。

市俄古は煤けた陰氣な都なり。市俄古の人の顔は煤けた陰氣な色をなしたり。紐育は晴れやかな陽氣な都なり。紐育の人の顔は晴れやかな陽氣な色をなしたり。若し市俄古がIWWを産み、其巢窟がありとすれば、紐育はどうしても婦人參政論者を産み、其本部がなければならぬ筈と思ひ申候よ。さり乍ら、すべてが鮮かにして明るく、特に四季なしに百花が咲き亂れてる南加に較ぶれば、如何に割引するも、太平洋沿岸の都市は、大西洋沿岸のいづれの都市より



も、動植物から空氣に至るまで眺めて、住みて、遙かに勝り居ると信じ候。それに男子にしても婦人にしても、大平洋沿岸の男は體格逞ましく、女は林檎のやうな頬べたして血色美しけれど、東部諸地方の男は古色蒼然たる風あり。女は容顏青白くして生活に疲れたる態あり候。取り分け紐育の婦人は背丈低く日本の婦人と大差なき者多し。唯ビジネスタウンに年頃の所謂女事務員が、數に於いて男子の幾倍もウヨク／＼ビイ／＼致し居るには驚き申候。かく陸にありては上に、下に、横に大なる紐育に日本人として誇るべきは大西洋上に日本汽船五十八隻も浮びて海運界に一大勢力を占めつゝありし一事と。今一つ忘れぬはある店にて珍らしき玩具を買ひ、此品は何處にて製造されたのかときいた時、メエド、ジャパンと答えられたる時の、意外なる矜らましい快感にて候ひき。匆々（一九一九年の冬日、紐育日本料理屋東洋軒にて）

◎

『華盛頓から日君に』華盛頓にては先づマウント・ヴァノンにある國父ワシントンの御墓に詣でその晩年の舊蘆をたづね申候。舊蘆は萬緑につままれたる樹林の中にあり。老偉人夫妻の長しなへに眠れる墓は其庭苑の一隅にあり。周圍は清く澄みわたりて一葉も浮べぬ湖水漫々として

めぐる。此日天日白く輝きて大氣さわやかに多くの鶯は朗らかなる空高く舞ひ、幽境淨域、眞に老偉人の靈跡にふさはしく思ひ候。

一日、出淵代理大使と會見す。氏曰く『日米問題の解決方法に三あり。第一は加州の日本人移民問題なり。是れは要するに歸化する目的をもつて生活し、米國に同化して出稼根性を捨つるにあり。第二は從來日本の侵略的なりしと思惟されし政策行動を打切り、利權の獲得を避けて専ら工業立國の政策を進行するにあり。例令ば新借款團に對して何も滿蒙除外を要求する必要なし、無條件にても日本既得の地位と將來の發展は大丈夫なりと信ず。第三は日本國民が今少しく世界的思想に接觸するにあり』と。

一日廣田書記官と會見す。氏曰く『日本の對外政策に對する私見を忌憚なく申すべし。第一英國は東洋に弱點を有す。即ち印度なり。弱點を有する英國と提携扶掖するは双方の利益なり。第二米國とは表面的には飽くまで親善協調を保持すべし。但米國提議の新借款團の如き若し無條件にて是れに代るものありとすれば格別、然らざれば滿蒙除外を要求するが如きは日本として當然の事なり。米國萬一條件を承認せずんば斷然加入せず日本は單獨にて經濟借款として國



民的發展の基礎を確立して可ならずや。第三支那に對しては從來の舊式外交を排し、支那と休戚存亡を俱にすべく、支那内地に日本の人材を植込むべし。例令ば寺内内閣の如く北京政府へ金を貸して外交の成功なるかに思惟するは一大謬見なり。第四徴兵令を改正し海外居住の人々には免除の特點を與へて海外發展を奨励すべし。同時に教育の根本に於て徴兵が權利にして且つ義務なる事を自覺せしめ、國民皆兵の實を擧ぐべし。』と。

一日井上陸軍少將に會見す。氏曰く『米國は實に立派な國なり。米國人は實に立派なる紳士なり。自分は數日前もヒルデルヒヤの一工場を視察したるが、重役はじめ懇切を極めて友情溢るゝものあり。日本人の中には米國を誤解したる人々少なからず。日米戦争の如きは到底不可能なり。日本人にして日米事あらば、米國內の黒人が呼應すべしと夢想する者あるも、それはほんとに夢想に終るべし。日本は到底米國の敵にあらず。今回大戦に際して米國の軍事的に如何に強大なりしかを知るならば』と。

廣田書記官は専門的の支那通なり。井上少將は専門的の米國通なり。出淵代理大使にいたつては蓋し其中間にして、順風に帆をあげ來たれる外交官所謂交際官なり。その他紐育華府に住

む實業家などの意見を叩きたるも、人々の意見は或は一致するもあり。或は全然相反するもあり。固より然かあるべき筈なれど、山に入つて山を見ず。時には林を出て、山を見るの必要あらんか存じ申候。米國の富強必ずしも羨望して涎を流すに及ばず。日本の貧弱必ずしも悲觀して尾を垂るゝに及ばず。正を踏み義を唱へ王道を進み、正義人道自由平等の假面を破りて覇圖を行はんとする國あらば、敢然起つて一撃を加ふべきのみ。時到り機熟するまでは、陰忍持久、最後に、唯一撃にして斃すべきのみ。など、申して見たく候。

一日、上田海軍中佐に伴はれて上院を傍聽す。恰かも例のボーラ氏が、山東問題に關して最後の大獅子吼をなす折とて、殊に興味を惹き耳を兎のやうに致し候。ボーラ氏の顔は遠目には政友會の秦代議士(遞信次官)に。その演説振りは國民黨の植原代議士に髣髴たり。その我れミわが手を叩き、兩手を打振り、大向ふの喝采を懸念するが如き見榮張りは、やゝ尾島行雄氏にも比すべくや。長顔長軀のヒツチコツク氏何か質問したれき音聲低くして聞えず。ロツヂ氏は傲剛不屈さうな赫顔を更に赫色にして怒號しつゝあるボーラ氏と數卓をへだて、しかも足を投げ出して居眠りをなして居ると見たるは小生の僻目乎。(華盛頓のホテルにて)



翌日發、南下の途次、新聞にて見れば山東修正案は三十五對五十五にて破れたる由。修正されん事をひそかに希望し居りたる小生としては、實は失望いたし候。小生は國際聯盟は英米の專恣を擁護し、英米の利益を増進するのみにして、日本伊太利の如き中等國は上にも下にも手足を摺縛せらるゝ結果に陥入るをもつて、其不成立を切望しつゝある一人なるが故に御座候。

米國巡遊中の岡田前知事、一日小生に語りて曰く「或る人、ニュオリアンスより友人に電報を打つて曰く、バラダイス此處にあり」と。けれども小生は一日市中を驅け廻りたれど、遂にそれらしき處を見出さず。たゞミスシッピー河の濁流滔々として洗ひ來り洗ひ去る畔、大厦小屋ぐちやぐち軒を並べ、路往く人々は何處人種といふべきか、雜然として混然として、世界中の血の交つたやうな顔付顔色をなしたる者大部分なり。

自働車の運轉手に「日本人の店はないか」と尋ねたるに「あります」こすぐ連れゆき候。やがて「此處です」と教へたる店を見れば、支那人街にして、然かも二階に「中華國民黨」こ書きたる大なる金看板をあけたり。小生を支那人と思ひたるか、將た日本人の店と思ひたるか。

いづれにしても米國の南の果てに支那政黨の金看板を見付けたるは、ニュオリアンスに於ける掘出しものと存じ候。

昨夕ニュオリアンスを發し、本日午後一時當地着、ホテル、セイ・アントニーに投じ候。樓上よりのぞめば市街は森に包まれて、なか／＼立派な大都會に候。市中を電車にてのたくりまはり候ところ、此處に始めて黒人白人の席を區別したる所謂差別的電車を見出し候。小生はそれにつけても、華府を發したる日、車中にて逢遇したる一人の黒人兵にオハマ通過の際讀みたる黒人私刑の事を話したる時、彼れが深黙に落ちて一言を發せず、爛々と憤に燃ゆるが如き鋭き眼光を思ひ出し、ぞつといたし候。新聞記事を禁止したる市俄古の黒人大虐殺の真相を知したる小生は、野獸の如き米國民性の現實曝露を明かに其處に睹る心地いたし候。北方の米人は、今日まで南方の米人が黒人を私刑するを蠻風なりこ非難し居たる由なるが、其北方にて此頃南方にもなき慘虐が處々に行はれたる事とて、今度は南方の人々が、北方の人々を嘲笑して「北方の米人は南方の米人よりも一層野蠻なり」と申し居り候は意味深長に候はずや。



夜十一時發、ラレドに向ふべく候。新聞を讀むに、草賊匪徒到る處に出現して、墨國の物情騒然たるものあり。果して豫定の行動をつゞけ得るや否や一首あり。母國の知己に葉書に書きおくり候(ホテルの三階にて)

幾千里やまと男の子の氣を負ひて

旅すなり我れ事あらばあれ

## 五 北墨から首府へ

「氣をつけて見てゐる給へ、あち此方の電信柱に人間の骸骨がぶら下つてゐるから、中には首を縊られ乍ら、まだばた／＼動いてゐる者もあるよ。だから此節墨西哥ゆきは物騒だから止し給へ」此足を墨國に踏み込むまで其處でも脅かされ通しであつた。それに太平洋岸の人々にも、大西洋沿岸の人々にも、昨今の墨國が果してどの程度に於いて物騒なのか、旅行するとして何處からはいつたが比較的的安全なのか、領事館あたりでも殆んど見當のつく思料は得られなかつた。いよく紐育で墨國の總領事館に旅券の裏書を貰いに行つた時、係りの一婦人が

「エルバツから入るよりもラレドからおはいりなさい。米國人がいふやうに墨國の旅行は決して危険ではありません」と懇切に教へて呉れた。それでも私は半信半疑であつた。何しろ日米問題の経緯の中に織り込まれてゆく日支と日墨と。米支と米墨との關係は、新たに産れ出た國際政局の後に處する日本人として、特に痛切に私の興味を咬るものがあつたので、最後の覺悟をきめて華盛頓から南下してニュー・オリアンズ。サン・アントニオを経て、濁流滔々として國境に横たはるリオ・格蘭ド河の長橋を渡り、午前十一時半、ヌエボ・ラレド驛からいよく墨國列車に乗込んだ。列車はサルテイヨ驛に一泊し、第二日、第三日は車中に暮し、第四日目の朝九時に首府メキシコ市に着いた。

モントレイの驛で分れを告げた父子の二人づれは、慎みふかい容子で私に握手を求めて去り。女學生らしい三人の娘をつれてサルテイヨの夕暮れに列車をおりて行つた一紳士は、心をこめて「日本は墨西哥と兄弟の國である。自分は一人旅の君を他人とは思はない。自分は君の事情が許すならば永く墨西哥に滞在して幸福な家庭を此國に於いておつくりになる事を切に希望する」など、親切に物語り、袂を別つに臨んで堅い握手を求めた。ラレド以來、西班牙語のわか



らない私を何呉れと朝夕の飯の事まで世話焼いて呉れた佛蘭西人系の母娘は、途中でも一所に列車に泊り、メキシコ市につくと馬車を備つて私をホテルまで案内して支配人に紹介し、「見物には自動車よりも馬車の方が経済的である」まで教へていつた。

◎

列車が夜行せぬのと、護衛の兵士が乗込んで居るのは、共に萬一の變を慮つて安全を期するための政府の心盡しらしい。それじゃ危険や杞憂があるかと言へば、私は紐育の墨國領事館の一婦人の言葉がほんとうに眞實であると思ひ、墨國の旅に對する所謂半疑はラレド驛を發した以來、いつかはなしに霧消して、米國を旅するよりはずつゝ氣樂な、のんびりした心から愉快な旅をしたと言ひたい。墨國が危険だといふのは米國のブロバガンダである。

一目したゞけで墨國は貧富の懸隔のひさい事が海のやうな沙漠の中の小さな南墨の驛々で、手にく手料理や、牛乳の井や、果物などをさけて物賣りに來る裸足のまゝの村婦野嬢の上にも、おかしなつばの大きい帽子を被つて汽車の旅する勞働者達にも銃をかついだまゝ買ひ喰ひをして居る兵士達にも知られる。それにどんな寒鄙僻地でも、どんな貧乏世帯の人々でも、昔

からいかに宗教に歸依してゐたか。またいかに宗教の勢力が強大であつたかは、到る處、或は樹立の中に。或は兵の麓に。あたりのみすほらしい土造の住小屋に取り巻かれて建てられた堂々たるカソリック教會堂の大伽藍と其尖つた高いく塔が、紺青の空を刺すやうにそゞり立つてゐるのでも知られる。教育機關として一時は是れを利用したけれども、墨國に信仰の自由が許され、僧侶が政治に干與する事を禁じ、普通人と同一の裁判所で審判されるやうになつた以來、教會は次第に荒廢し、僧徒は次第に零落して、今は其の殿堂のみが隨處に残骸のやうに横たはつてゐる。現在の墨國としては普通教育の普及に此教會堂と其僧侶とを善用する事が、その目的を達する近路のやうに思はれるが、果していかにや。

◎

千九百十三年二月二十三日、星明りの夜はいたく闇けわたつた。その眞夜なかに、すぐる十八日此かたウエルタ將軍の腹心の手に監禁せられてゐたマデロ大統領と、ピノスレアス副大統領は馬車に遷されて、武装の兵士に護衛されつゝ、とある木蔭の暗い路に來た時「伏兵どつと起つて二人は彈雨と亂刃との下に敢えなく斃れた。マデロは途中で要して奪はうとした味方



の流弾に斃れたのである』と公表されたが、はからずも秘密の黒幕は時と共に引き剥がれた。事の真相は護送の兵が、イヤがる大統領を途中で馬車から引きずり出して、無惨にもだしぬけに背後からピストルで亂撃したのである。しかも驚くべきは時の米國大使ヘンリ・ラン・ウキルソン氏が、ウエルタ其他の反政府軍の頭領と大使館の一室に密會して、米國の將來に利益を提供する默契の下に、自國に利用し得る人物を擁立すべく、陰謀畫策の鍵を握つて、この大慘劇の筋書きを自ら書いたのであるといふ事が、此頃ではもう隠れもない露はな事實となつた。心魂を奪はれたやうなマデロ大統領の夫人が、紅涙の袖を絞りながら、その家族と共にわづかに身をもつて虎狼の群れをのがれて、呼吸も絶えぬに日本の公使館に身を投じたのは、其夜もまだ明けやらない中であつた。極めて消極的な拜米外交の因習に囚はれた歴代の日本の當局や駐外官をおもふ時、時の我が公使であつた堀口九萬一氏の仁侠と勇氣と活動とを聞いて、聊か溜飲がさがつたやうな氣持がした。ウエルタも去る者なり、日本公使の此仁侠に對して、その翌日は早速正式に、公使夫人に花環を贈つて、お禮に訪つて來たとの事である。

けれどもウエルタ大統領とても亦歴代大統領とおなじく、鴻望を成就すまでは米國を背景と

したが、大統領の椅子に就くや、戈を逆に早くも對米硬の張本となり、其勢ひはなかなか猛烈であつた事はタムピコ事件でも知られる。さりながら彼れも亦マデロにおなじ運命の下に、米國のために國外に亡命を餘儀なくされ、米國の獄に捕はれて遂に雄圖を抱いたまゝ、冷たい暗い獄舎の中に煩死した。米國の後援助力によつて彼れを國外に追つて大統領となつたのは憲政軍のカランザであつた。そのカランザ將軍も亦有名な對米硬の巨魁となつて、ウエルタとおなじ運命の下に、米國の後援助力によるオブレゴン將軍等のために最近首府を追はれて落ちゆく途中に要撃せられ、なさけを知らぬ一大佐の毒刃に敢えない最後をとけた。

サバタ言へばカランザ政府も手古摺つた反對黨の首領驍將であつた。彼は自分の生れ故郷たる首府に近いモレロ市に根城を張つて弓を引いてゐたので、政府はゴンザレス將軍に大軍を與へて討伐にやつた。然るにサバタは所謂共產主義の主張實行者であつた。西班牙人の一富豪其他の資本家を叩き潰して其財貨を四民に頒つなど低級な民心は多く彼れに傾倒してゐた。時は千九百十七年の秋九月、兩軍は相對陣して下らず、いつ戦ひの果つべしとも見えなかつた。ある日、ゴンザレスの陣營に、前衛隊にある部下の大尉が來て、サバタから頻に投降を勸告せ



られつゝありと物語つた。かくと聞いたゴンザレスは膝を叩いて一策をさづけた。けれども大尉は恐れて自らサバタの陣に行かず、「官軍疑を挟んで自分が貴陣にゆくの自由を許さない。願くば將軍の武勇をもつて微行して吾陣に來たらば、吾隊は結束して將軍の部下に投ずるであらう。今夕粗宴を張つて將軍の來臨を待つ」を懇ろな書面を載せて、サバタのひそかに來たらん事を請ふた。

サバタは年の頃三十前後、豪快なる青年武人であつた。ほんとうの墨西哥魂の持主である彼は、その夕、招請に應じて僅に五六の部下を従へ、肥馬に跨つて當に營を發せんとする時、美しい一人の墨西哥少年が、いきせき切つて驅けつけて馬の轡を取つて動かさず。曰く「將軍今夕の往問に對して胸中不安がある。若し強いて行かんを欲するならば、更に一隊の軍を率ゐて萬一の變に備へよ」と。將軍曰く「一諾は鐵石の如し。約を違ふは我が性にあらず。請ふ心を安くして我が歸るを待たれよ」と。一鞭高くあけて暮雲の中に遠くかくれ去つた。美少年は涙を含んで蹄の音の絶ゆるまで其處に立つてゐた。その美少年こそは、彼を相思ひ相ゆるした明眸皓齒の墨西哥娘であつた。少女はつねに男装して形影の如く彼れに従ひ、彼れを勵まし閑

あれば相伴ふて馬上風月に親しみ、事あれば相携えて馬上敵軍と戦つた。

サバタは暮色の中を敵の陣營に近づくに、歡迎の喇叭が劉々として高く鳴りわたつたと思ふと、突如として一齊射撃が起り、彈丸は雨のやうに彼の身邊に注がれた彼が「しまった」と齒を嚙んだ時はすでに遅かつた。彼は此の危害の中にも愛人の言葉をおもひ出しながら、敵の亂刃の中に勇ましい戦死をなした。急をきいた少女は慟哭して自ら刃に伏せんとしたが、人々の切諫にあつて弔合戦をなすべく、再擧の機を草深い田舎に窺つてゐるとの事であつた。その雄々しき少女を偲びて。

しのぶだに雄々しき花の少女子が

血しほを浴びて立てるいくさ場

墨西哥の花の乙女の残したる

いくさ語りにふくる夜半かな

もの靜かに寂びにメキシコ市の幾夜かは、かうした革命哀話や、政争物語のかすくに明け暮れた。あゝ英雄の末路に古今なし。墨西哥ならなくに、勝てば官軍。敗くれば賊。おもへば



哀れにも亦傷ましきかな。

◎

革命軍は米國を利用し。米國は革命軍を利用する。此事實は歴代の大統領の記録の中に残されてある。革命軍は事の成るまでは米國を利用する。事の成るや忽ち愛國的精神と自國の存立上、米國に利用されなくなる。利用されなくなるに、米國は亦次の革命を欲する。その心情はあたかも『よもやく／＼に曳かされて』墨國の革命を迫つてゆく。革命軍も米國も共に自己の野心のために。慾望の満足のために、夢中になつた戀人同志の觀がある。それにしても今日まで米國が用意周到なる帝國主義的計策をもつて、墨西哥の領土を攻略。併呑。買収したのは、實に左の如くであると、メキシコ市在住の日本人が私に送つた書類にある。

テキサス	二六五、七〇方哩
コロラド	四、五〇〇
カンサス	七、八六六
ニューメキシコ	三三、一〇一
オクラハマ	五、七四〇

アリゾナ	二二、九二方哩
カリフォルニア	一五、八〇一
ネヴァダ	一一、〇〇〇
ユタ	八四、四七六
ワイオミング(一部)	一四、三〇〇
合計	九〇、五五五

以上の總面積は、現米國の四分の一の領土に過ぎない。現墨國の領土より十六萬方哩廣く。日本の總面積に比して五六倍も大きい。

## 六 首府から南墨へ

墨都で私の會見した人々の中から。

日刊新聞社長にして上院外交委員たるサンチエス・アスカナ氏曰く「自分は墨米親善論者である。御承知の如く墨國は財政豊ならず兵數少ないけれども、米國は財政豊にして其兵も亦多いから、平和的にも、戰爭的にも敵として相争ふには困難である。乍然、さればといつて自分



は屈辱的の墨米親善論者ではない。萬一米國が富國強兵を楯として我國に凌辱を加ふるならば斷乎として劍を執つて起つに聊かも躊躇しないものである。しかも墨米相争ふは墨米兩國の幸福でなく損害であるのみならず、米國としては墨國が拉典亞米利加諸國即ち中南米の後援を有する事を知つてゐるから、容易に干戈に訴ふる事はしまいと思はれる。たゞへば墨國は中南米の瓶の口に當る米國にして此瓶の口を無理に抜くか、不條理に毀すかするならば、瓶の中には何等かの大變化を見る事は明白である。自分は中南米の瓶の口をもつて任ずる墨國々民としてシヤペンの瓶の栓のやうに堅く自重して事に處し機に臨み、米國の行動を注意すべきであると思つてゐる』

外務大臣イラリオ・メデナス氏曰く『國際聯盟には最初から進んでは加盟を欲しなかつた。何となれば、彼の聯盟意章を見るに、確固たる永遠の平和の基礎をなさうとは信ぜられない。就中人種の平等無差別を承認しない國際聯盟に、何程の權威があり價值がありませう。さりながら若し將來日本からでも聯盟參加の勸告があつたら、更に逐條審議をして、世界の平和に貢獻して、墨國の利害と大なる衝突さへなければ、加盟の上日本と共に特に至人類の自由平等と

全世界の平和増進のために、相携提して奮闘努力致しませう。唯今の處、米墨の關係は、米國の新聞が報道するやうには切迫して居ない。唯米國の一部の資本家は政府をつゝいて、米墨の間に事を醸し、自ら其間に利益を壟斷しやと企圖して居るものもあり、亦多數新聞の中には或目的のために墨國の内情を針小棒大に世界に宣傳して居るものもある。墨國の困難して居るのは財政難よりも武器難である。日墨兩國は眞實に敬意と友情とをもつて居ります。日本人は現在も將來も、墨國の何れの地たるを問はず自由に安全に來往し、亦農業商業を經營する事が出來ます。政府さしても能ふ限りの便宜と援助とを致します。然るに日本人及日本の資本家實業家連は何故に私共が豫期するやうに墨國に來ないのであるか。此點は私共の常に遺憾とし、残念として居る點であります』

内務大臣アギユラ・ベランガ氏曰く『墨國の財政は困難なれど來年にもならば歳出入の均衡を得る豫想である。歐米の資本家から借款の勸告もあるが謝絶して居る。先頃米國の政府からも借款申込みがあつたけれども、其條件が過酷であつたから夫れも謝絶したやうな次第である。日墨の親善は自分の年來主唱する所である。特に商業貿易は今日以上相互の間に發達する餘地



充分であるから、自分は戦時中日本から日本商品のサンプルを取寄せた處が、其見本品が米國を通過する途中不思議にも行衛不明になつた。今度日本に赴く新公使は此事に就いても奔走盡力する筈であるが、貿易以外に、自分は日墨の資本家が其共同事業を墨國に經營する事も亦日墨親善の一助にして有益有利なりと確信する。平和後歐米人の資本家に後れないやうに、日本人及日本の資本家が速かに着手すべしやうに、日本國民に宣傳して下さい。自分は如何なる面倒でも見てやる事を敢て辭しません』

日刊新聞ヌエボ・メヒコの副社長は曰く『日墨兩國國民は兄弟の如き友情を持つて居る。日本も米國の敵なる如く、墨國も米國の敵であるから、日墨兩國國民は共同の精神をもつて事に處すべきである。殊に歴史的にも墨國の昔の人種は日本人と同一らしく、今にも日本人と間違へらるゝ墨國人が頗る多いのでも知られます。自分は近き將來に兩國國民が相締盟して世界の文明に貢献すべく努力したいので、自分の新聞にも必ず日本欄を特設する考である。自分は此機會に米國の標榜する正義人道が如何なるものであるかの一事實を貴下に告げて置きたい。米國は曾つてウエルタが武力によつて政權を獲得したのは反逆者の行爲であると稱して、其政府を承認

しなかつた。同様の理由の下に中米コスタリの現政府をも亦承認しなかつた。以上二件に對する態度の是非は姑く別として、其方針は徹底したるの感がないでもない。然るに何ぞ、ウヰルソン大統領は本年七月武力をもつて、統領を追放し、議會を解散し、利己的に憲法を改正して自ら大統領となつた南米秘露の現レギア政府を卒先して承認したではないか。當時のウエルタ政府及び現コスタリカ政府は米國に不利であり、不利であるから承認せず、然るに前二者と同様の理由を存するに拘はらず、南米に於ける米國の腰巾着たるレギア政府を卒先承認するが如きは、前後撞着矛盾の甚しいもので、米國の正義人道自由平等主義は、對手の時と、處と、人々に依つて使ひ分けされる一事實をどう思ひます乎』

◎

墨西哥は米國式の共和國。聯邦政府の組織は立法。司法。行政の三部から成る。立法部は下院即ち代議院と上院即ち元老院の二つに分れ、下院議員は人口四萬毎に一人。上院議員は各州から各二名づゝ。其任期は四年間。但二年毎に半數を改選する。司法部は高等法院巡回裁判及び地方裁判所とから成り、高等法院は判事十一名。代理判事四名。檢事一名。營庫官一名。六



年毎に改選する。此外に巡回裁判々事三名。地方裁判々事三十二名が司法部に附屬して居る。行政部は大統領が首脳で外務省。内務省。文部省。開拓省。農務省。逓信省。司法省。陸海軍省の八省から成つて居る。大統領の選挙は四年毎に行はれる。各州も亦三部制になつてゐるが中には低加州、ユカタンの如きテリトリーとして政府の直轄州もある。

私が墨都に行つた時（昨年末）の調査によれば上院議員五十八名。下院議員二百四十五名で政黨は自由憲政黨。自由民主黨。民主聯合黨。文治派の四つであつた。その數に於いて政黨は在野黨ほどの勢力がなかつたけれども、對外問題になれば、いつも舉國一致であつた。ために稍もすれば政府は内政が行詰りとなれば、國民の視聽を外政に轉じ、外政を政權維持の道具として弄するの傾向もあつた。

◎

海拔七千尺の高原に建てられた人口六十萬のメキシコ市は羽根のやうな白雲をところ／＼に泛べて、高く水色に澄んだ空の下に、隅から隅まで掃き清められ、行路の常盤樹はわくら葉一つ散らさず、光りかゞやく獨立百年記念塔から、大統領の官邸にかけて一帯の風致は殊に典雅

な趣きがあり、蹄の音軽く走る數間は辻待の二頭馬車も此趣にふさはしい。路ゆく人々は傲慢放縱な米國人と違ひ、釦一つはつさないで身仕舞でも心からにやきちんとして、中にも婦人の如きは日本の婦人のやうに小柄で、髪も眼も黒く涼しく氣立ても極めて優しい。すべてのものが私の豫想を裏切つて心ゆくばかり奥床しくゆつたりとしてゐた。

首都に滞在中に、私はいろ／＼の人々に會つた。會つた人々は十年の舊知を迎ふるやうな懐かしい態度で『出来るだけの御満足を與えたいから、何でも御遠慮なく』といふ調子である。そして社交的な客をそらさぬ應揚な上品な拉典特有の氣分の中にも、會つて大統領をして『吾等の血液には不幸にして西班牙人の血液を混じたり。然れども我が墨西哥人の魂魄には微塵も西班牙人の魂魄を混せず』と公會の席上に豪語せしめた。その『きかぬ氣』と『まけぬ氣』の『墨西哥魂』が對話の間にもヒシ／＼と感覺される。

首府に程遠からぬソチミルコの湖上に花船を泛べ、長い影を投じた白楊樹下にともづなを繫いだ花船の女房が、氣も優しく焼いて呉れたトルティヤを嚙り、豚の皮袋から注ぐ軽いブルネの酒を飲みながら、流れのゆるやかな節面白い墨西哥の歌を唄ひつゝ、心のどかに水刷棹をさ



し、あちこち舟遊する遊蕩的な享樂生活にも亦すて難い趣がある、私は一日、伊藤代理公使の一行と共に行樂をほしまゝにして、その歸るさ、花のやうな少女が『花束召せ』と集ひよる其處に、墨西哥人の詩的生活の半面をも見た。

◎

午前四時に首府をたつた私は、ゴルドバ驛とサンタクレシヤ驛におの／＼一泊して、三日目の夜九時に太平洋岸の南端サリナクルーズ港に着いた。

首府から南下する其汽車の中で、道づれになつた温厚柔和な一紳士は『自分はユカタン州で織維の事業を經營して居るが、ユカタン州は墨西哥の第一の寶庫である。若し貴下が自分と行く事が出来るなら、どんなにでも御話申上げやう』といった。ゴルドバのホテルの食堂で顔馴染になつた一青年は、墨國人特有のふとい黒目勝ちの眼と、筋の通つた高い品のいゝのをもつた、わかい美しい彼の二人の妹を私に紹介して、その夜は雨中を三人づれで私を活動寫眞に誘つて呉れた。翌くる日別れる時、彼等は握手するなり、そつと私に抱きつき、幾たびか私の背中を撫でるやうに叩いて名残を惜しんだ。

取りわけ南墨の驛々で、椰子の花や鶏頭華や香氣のたかい花環を頭髮にのせて、長い旅路の客にすゝむる娘達の、鈴を張つたやうな太い黒い、艶のある戀しさうな眼の潤ひは、人をして遠い詩の國に旅する憧憬の心に浸らしめる。

◎

私は文字通り北墨から墨國の脊梁部を縦斷して南墨へぬけた。けれども私は人々に脅かされたやうに列車窓から、電信柱にぶらさがつて居る髑髏や人の生首を見出さなかつたかはりに、墨國を通じて更に米國そのもの、醜い骸骨や、まだ生々しい生首を見て覺えず心を寒くした。或は、米國のためにだまし討に會つたテキサス、ニューメキシコ其他の累々たる骸骨、なぶり殺しにされつゝある墨國の喘ぐ生首を見たさいつた方がよいかも知れない。さりながら墨國は慘ましい其刀痕をつまらずして今も尙米國と苦しい戦ひをつとけつゝある。一たび對米問題になれば、朝も野も、老幼男女も、眼尻をあけて一致結合する。西班牙人の血に漬されざりし『墨西哥魂!』その誇りが墨國人の不滅の生命である、墨國は必ず興る、墨國が興つて海に陸に彼れが如き無盡藏の寶庫の扉が開かれた時、世界列強は恐らく驚異羨嘆の目を見張るであらう。



それに革命後四十前後の人々が大臣となり、大統領として政治外交の難局に當りつゝ、あるのを見て、私は限らない頼母しさ嬉しさ、浦山しさを感ずつゝ、榮光ある『若き墨西哥』の前途を祝福せずには居れなかつた、願くば墨國及墨國人の上によろしく正義に輝く榮光あれ（一九一九年十一月の或日南墨サリナクルーズの客舎にて）

## 七 布哇から日本へ

少年の頃から其の名に馴染んだ所謂『常夏の國』である布哇のホノルルに上陸する事になつた。布哇は主なる八島其他の小島嶼を合すれば我が日本の四國に比して稍小さい。日本人がはじめて此島に移住したのは明治元年であるが、以來年々増加して今日では布哇總人口約二十五萬中に、日人及日本人種の米國市民が併せて十二萬の多數を占めて居る。布哇は米國の一テリトリーではあるが其政治組織は最も完全であつて、米本國のステートの政治組織に近い。米本國の憲法も亦其儘此地に適用せられ、其人民も亦米本國の市民と同一の權利を行使しつゝ、ある。日本人系の市民として一九一八年度に選舉權を行使して居るものは布哇人の一萬九千

一名。アングロサクソン並に拉典系の七千九百八十二名。支那人系九百五十四名に對して僅に二百八十七名（不登録者四百餘あり）にすぎないけれども、日本人系兒童の増殖率により、二十年後に於ける投票有權者數を、布哇新報社が調査する所によれば凡の左の如くである。

(年次)	(出生男子推定數)	(有權者推定數)
一九二〇年	四四五	一、二二七
一九二五年	一、一九六	四、一九九
一九三〇年	一、八三五	七、八五二
一九三五年	二、三六五	一三、一〇四
一九三七年	二、六二四	一五、六二二
累 計	二九、五九五	一五、六二二

（右計算の出生兒童數は布哇縣廳並に日本領事館の統計を基礎とし、有權者數は死亡者四割、歸國者一割即ち五割を減じたるものを基礎としたり）

以上の如く日本人系の市民が増加する事が布哇及米本國に於ける排日論者の主理由をなしてゐる。米本國の排日論者が『見よ布哇を！』といふが即ち是れである。試みに布哇縣廳の日本人出生數を見ると總出生兒の殆んど半數を占め左の如き順位を示して居る。



(人種)		(出生數)	(人種)		(出生數)
日本	人	四、五〇四	朝鮮	人	一、八一
葡國	人	一、〇三三	西班牙	人	一、五
混血布哇	人	九二	英國	人	三二
支那人		六九	獨逸	人	三〇
布哇土人		六六	露國	人	二〇
比律賓人		四八	其他		三
米國人		三三	無		一四
ボトリカン		三三	總計		九、四〇四

然らば布哇の主産業にして生命たる砂糖事業に日本人が如何に貢献しつゝあるか。所謂有色人種たる東洋人が如何に努力しつゝあるかを、砂糖耕主組合の一九一八年度の統計表に見るに左の如くである。

所謂有色人種(東洋人)		所謂白色人種(西洋人)	
日本人	二四、六一	葡國人	二、九〇五
比律賓人	九、九四	布哇人	九二
支那人	一、八九五	米國人	七〇二
朝鮮人	一、二九九	西班牙人	五元
其他	二六〇	露國人	四
合計	三六、〇〇九	合計	五、一五九

私共の觀察する所を以つてすれば、布哇の産業をして今日あらしめ、布哇の繁榮をして亦今日あらしめた最大の貢献者は即ち我が日本人であると確信する。而して此觀察は事實の上に根據した斷定であるから、恐らく米國人自身といへども否認は出來まいと思ふに係はらず、猶且つ理不盡の排日が提唱されるのは言語同斷である。米國の仕打は苦心慘愴して不毛を拓き荒蕪を耕かして其處から相當の収益が生ずるやうになると、忽ち鬼の如き牙を鳴らして追つ拂ふといふ正義もなければ人道もない遣り方と申しても過貶ではない。布哇の排日然矣。加州の排日然矣。米國の手によつて門戸を開き、長夜の夢から喚び醒まされた日本が、漸次世界的に目覺めて來ると、今度は俄然態度を一變して其覺醒と興隆を好まざるが如き政策を取る米國の排日的國際外交も亦然矣ではない乎。

布哇に於ける日本人語學校の廢止問題の如きは、昨今起りつゝある排日的具體案である。此案に對しては贊否兩論あるが、既に昨年下院では絶對多數で廢止に近き法律案を通過したので、幸にして上院で否決したのである。中から代表的の贊否兩論(昨年末發表)を紹介する。

下院議長ホルスタイン氏は廢止贊成に就いて曰く『一ヶ年以前に日本語學校に對する予の意



兒を徴せられたる時予は「日本語學校に於て若しミカド主義を教へつゝありせば是等の學校は直ちに閉鎖されざる可らず、日語學校の當事者は或る時期に於て其學校が全然廢止さるべき事を通告さるべし」に答たり、是の意見は過去も現在も將來も變る事無し布哇には二重國語を許容する餘地無し、日本語學校の辯護者は親の用ゆる言葉の子に教へ、兩者の交情維持の爲め日本語學校の必要ありと言へど、是れ滑稽なる議論なり、予はカナカ語を學ぶ爲めにカナカ語の學校に通ひたるにあらざるも、直接慈母より又家庭に於て是を聞き覺へ何等不自由を感ずる事なかりき、日本語に於ても又同様なり例令日本語學校無くとも日本人兒童は家庭に於て又母の膝の上に於て日本語を聞き覺へ、其の會話に不自由を感ずる事なかるべし。米國にては星條族及英語の外に他國のフライイギ及び他國語を容る、の餘地無し、前期縣會に於て上院が外國語取締案を否決したるは甚だ残念なるが、其後一般の意見は外國語學校取締資成に傾きたるは邦家の爲め大に慶賀すべき事なり、』と

上院議員コック氏は廢止不賛成に就いて曰く「予は日本語學校を縣教育局の監理下に置く事は必要なるが、是を廢止するには不賛成なり、(一)予は外國語學校を縣教育局の嚴格なる監督

の下に置く事には賛成なるも、日本語學校を初め其他の外國語を全然閉鎖するには反對なり、(二)總ての外國人には其の好む所の外國語を習得するの機會を與へざる可らず、外國語の文學詩集等には人格修養及び智能啓發上に資するもの少からず、(三)予は總て個人は其の好む所の外國語を習得するの權利を米國憲法により與へられ居れりと信ず、然れが彼等は商業上の爲め又は智識啓發上外國語を學ぶ專を得る也、(四)米國の各學校に於ては現にラテン語、佛蘭西語希臘語等を教へつつあり、(五)然れ共若し外國語學校が過激派主義、極端社會主義、帝國主義等の如き米國の理想主義、精神に反するものを教ゆる場合は吾人は進んで外國語學校の教科目を監視せざる可らず、(六)日本語、支那語其他の外國語學校は外交上及び通商上必要なれば予は米國市民が進んで是等の外國語を學ばん事を慫慂す、』

私共も廢止案の理由の中には首肯すべき點のある事を承認する、即ち若し日本人系の市民が日本主義に教育され、將來米國化する事がなければ、一日も速かに布哇はテリトリイの境界から脱しやうとする目的を達成する上に於いて障害をなすといふ事は最も論根と思はれた、しかし日本人系の市民が果して日本主義なりや、米國主義化せずや、日本人の兒童と他の外國人



の児童の思想性行に米化上何程の差違ありや、私共は布哇に上陸して、日本人の児童が、日本語學校に通ひながら、(米國學校では完全に義務教育を受けて居る)其父母と對話する時にすら猶且つ英語を使用し、あるのを見聞して、彼等が日本語を修得する事が決して米國主義に反し、亦布哇を一ステートたらしむる故障となるべしとは殆んど信ぜられない、彼等排日論者は口を開けば『日本人の家庭は不良にして、其子弟には不良少年多し』とも稱するが、斯くの如きは誣妄も亦甚しきもので、私は其然らざる事實を左に立證する、

人種別公立私立學校生徒數

(人種別)		(生徒數)	
日 本 人	一六、四二六	朝 鮮 人	五〇〇
葡 國 人	六、三三二	西 班 牙 人	三六
布哇混血人	五、一八九	獨 逸 人	一七
支 那 人	四、四四四	英 國 人	一八
布哇土人	三、九〇五	露 國 人	一五
米 國 人	一、八七三	其 他	一六
ポトリカン	一、一〇〇		
比 律 賓 人	六九八		
合 計	四一、六四〇		

日本人の生徒は實に布哇に於ける總學校生徒の十分の四の多數を算して居るか、然らば彼等の所謂不良少年少女なる者が各人種の中にて何れの人種に最も多きかを、布哇の未丁年裁判所が一九一八年度に取扱つた件數に就いて見よ、其兒童數に比例して全く反對の現象を現はして居るではない乎、

(人 種)		(男)	(女)	(計)
布 哇 人	一、三〇	三三	二九	六二
白 人	一〇八	三三	一六	四九
支 那 人	三三	三	四	三七
日 本 人	四四	八	五	四九
其 他	四	三	二	五

私共は日本人の子弟が、他のいづれの國民に比しても、其性行、其思想、其教養が遜色なきのみならず、最も優秀にして米化の實をあげつゝあるのを、此布哇縣廳の調査した統計の上にてだけでも、容易に發見し得るではない乎

布哇は美しい島であつた、私は綺麗な街からサボテンの山へ。山から砂糖の畑へ。畑から日



米の教會へ。教會から日米の學校へと見て廻つた。

◎

私は大平洋上の雲濤をかけりつ、切々として自ら省み自ら問ふて曰く『自分が今日まで歴遊した支那、西伯利亞、南洋、米墨兩國の到る處に在留する日本人ミ、諸國人とに接觸して、第一に感覺したのは何である乎』と。私はそれに對して自ら答えて曰く『過古に於ける日本の歴史、日本人の精神は勿論、『日本は國として、日本人は人として、將來世界に於いて最も優秀なる國家を維持し、最も優秀なる文明を創造すべし』と。吁、此自問自答は、果して私の自畫自讚に終るであらう乎。

私は希望ミ光明ミに勇み、自ら勵まされつ、一年有半の長い旅路を了へて、祖國日本に歸りを急ぐ船橋に立つて、觀音岬から遙かに雲表にそびゆる富士の靈容を仰いだ刹那。我が酷愛する祖國日本に對する、感謝の念は湧然として沸ぎるやうに湧いた。時に歌あり。

國といふ國おほけれさ日の本の

國にまされる國やなからん

あ、『幾そたひかきにも澄みかへる、水やみくにの姿なるらむ』とは、よくも歌へるかな。私は酷愛する祖國日本に對して限りない感謝の念にみたされつ、此記の筆を擱くに當つて、世界的大偉人にして國父たる我が明治大帝の御製をかゝけ、度みて絶唱す。時に大正九年九月二十日午前十一時。霞ヶ關の畔にて

國といふ國のかゝみとなるはかり

みかけますらを大和たましい

## 米墨縱橫終



大正九年十月七日印刷  
大正九年十月十日發行

\*\*\*\*\*  
\* 版 權 者 著 所 \*  
\*\*\*\*\*

(定價金參圓)

發行者兼

東京府豐多摩郡千駄ヶ谷九〇三

東 幸 治

印刷者

東京市芝區南佐久間町二ノ十

坂 井 昇

印刷所

東京市芝區南佐久間町二ノ十

安全印刷株式會社

發行所

東京市神田區鎌倉町三番地  
振替口座東京壹八四四番

政 教 社



IT 4G 76



終